



20周年を迎えた赤谷プロジェクト

赤谷森林ふれあい推進センター

はじめに

赤谷プロジェクトは、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる「赤谷の森」を舞台として、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、公益財団法人日本自然保護協会、関東森林管理局（赤谷森林ふれあい推進センター）の3つのセクターの協働により、生物多様性の復元、持続的な地域づくりを進める取組です。今年度で2003年（平成15年）のスタートから20年の節目を迎えました。

今回は、赤谷プロジェクトの取組の一端を紹介するとともに、「赤谷プロジェクト20周年記念報告会」の様子をお伝えします。



① 生物多様性の復元

赤谷プロジェクトの主な活動と成果

赤谷の森には、地形・地質・気候などに応じて様々な動植物が生息・生育しています。赤谷プロジェクトでは、これら森林生態系の保全や復元を目指しています。



自然林への復元

例えば、赤谷の森の国有林約1万haのうち、約2,800haを占める人工林を自然林へ復元するため、人工林の伐採を進め、光環境や空間を確保することで周辺の自然林の多様な広葉樹を誘導しています。2014年度の調査で、

管内概要

所在地

群馬県沼田市鍛冶町 3923-1

区域面積

78,108ha

うち森林面積 73,850ha

うち国有林面積 56,664ha

関係自治体

群馬県みなかみ町



赤谷森林ふれあい推進センターは、関東森林管理局利根沼田森林管理署が管理する国有林のうち、約1万haを占める「赤谷の森」を主な活動区域としています。赤谷の森は、谷川連峰の仙ノ倉山(2,026m)や平標山(1,983m)から群馬県側を見下ろす形で広がっており、その一部は上信越高原国立公園や緑の回廊・三国線の区域となっています。当センターは、地域住民や自然保護団体等の関係者と連携し、多種多様な動植物が生息・生育する自然豊かな環境の保全や、伐採された木材を提供して地域の暮らしの発展に貢献する様々な取組を行っています。





狩りをするイヌワシ



イヌワシの狩場創出

赤谷の森のかつての人工林の約3割が既に広葉樹を主体とする自然林に置き換わっていることが分かりました。また、希少猛禽類であるイヌワシの生息数を回復させるため、狩場となる開放空間を創出する伐採も行っています。これまでの伐採箇所は計約6haとなり、取組開始から約10年間で、イヌワシの繁殖に3回成功しています。



森林環境教育

② 持続的な地域づくり

赤谷の森を訪れる子どもたちなど一般の方を対象に、森林環境を活かした体験学習や自然散策の場を提供したり、狩場創出のために伐採したサクラやブナなどの広葉樹材を有効活用し、カスターネットに加工して販売するなどしており、これらの活動を通じて持続的な地域づくりを目指しています。



カスターネットの販売



カスターネットへの加工

赤谷プロジェクト 20周年記念報告会

2024年(令和6年)2月3日(土)にみなかみ町カルチャーセンターで「赤谷プロジェクト20周年記念報告会」を開催しました。

報告会では、赤谷プロジェクト20年間の取組を概観した後、赤谷プロジェクト

クトがきっかけの一つとなって始まった「みなかみユネスコエコパーク」や企業版ふるさと納税を活用した連携などが紹介されました。その後、小規模林業家や自然ガイドなど地元の方々から、赤谷プロジェクトに対する期待の声が寄せられました。

参加された皆様には、森林環境がもたらす恩恵と自然環境の維持が、地域の暮らしの発展にも寄与することを改めて認識いただけたと思います。

赤谷の森の取組や成果は、広報誌「赤谷の森だより20周年記念号」にて詳しく紹介していますので、左記のQRコードからご覧ください。

赤谷プロジェクト20周年

https://www.rinya.naft.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/news/20thanniversary.html



◎ 今後の展開

赤谷プロジェクトが目指す2つの目標(生物多様性の復元と持続的な地域づくり)は、未だ道半ばです。今後も取組に賛同いただける多くの皆様はもとより、地元みなかみ町や地域住民の皆様との連携を図りながら、さらに活動を進めてまいります。